

大会レポート

第74回都市計画全国大会

～ 長崎県長崎市 ～

茨城県土木部都市局都市計画課

令和4年11月17日から18日まで、第74回都市計画全国大会が長崎県長崎市で開催されました。コロナ禍での開催となりましたが、感染症対策を徹底したうえで、全国から都市計画やまちづくり行政に携わる関係者が集まり、事例発表や意見交換、現地調査が行われました。

■大会1日目

長崎県土木部技監の開会宣言のあと、原田都市計画協会会長による主催者挨拶、長崎県副知事・長崎市副市長の挨拶があり、続いて都市計画協会会長賞など各種表彰が行われました。

全体会議としては、国土交通省大臣官房技術審議官の菊池雅彦氏より、令和5年5月に施行となる盛土規制法や令和5年度都市局関係概算要求など、都市行政をめぐる最近の動きについての報告がありました。

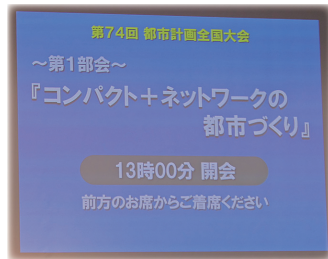


原田信夫 都市計画協会会長 平田研 長崎県副知事



高宮茂隆 長崎市副市長 菊池雅彦 国土交通大臣官房技術審議官

本年度の部会テーマは「コンパクト+ネットワークの都市づくり」、「新駅整備に合わせた周辺まちづくり」、「地域資源を活かした観光まちづくり」の3部会からの選択となっており、第1部会の「コンパクト+ネットワークの都市づくり」では、長崎市から「斜面都市長崎におけるコンパクトなまちづくり」、八戸市から「八戸市のネットワーク型コンパクトシティ実現に向けた取組」、宇都宮市から「ネットワーク型コンパクトシティ形成に向けた公共交通ネットワークの構築と沿線まちづくり」が報告されました。



第1部会



報告事例1 長崎市

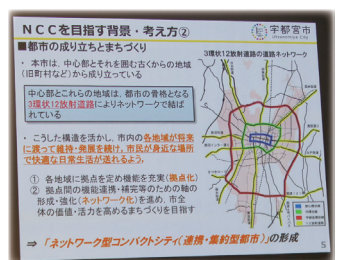
長崎市は3方を海に囲まれ平地が狭いことから、斜面地へと市街地を拡大してきましたが、車の入れない階段での移動は高齢者の日常生活や緊急・消防活動に支障をきたしています。また、傾斜度15度以上の斜面地で宅地崩壊が顕著に発生したことから、15度を超える傾斜地が半分となるように居住誘導区域を設定し、平坦地の容積率緩和等により居住を誘導しているとの報告がありました。

八戸市はバス輸送の7割を担っている市営バスの1日平均輸送人員が20年間で65%減少していたことから公共交通再生プランを作成し、バス路線を幹線軸とそれ以外の路線に再構築することで利便性の向上を図るとともに、八戸ポータルミュージアム「はっち」やスケート場などのまちなかの拠点づくりを同時に行い、持続可能な地域公共交通網の形成を図っているとの報告がありました。

宇都宮市は、ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)を目指し、LRT事業を進めており、整備している宇都宮駅東側(R5.8開業予定)や、整備区間とした駅西側の約5キロ区間において、バス等との結節機能の強化、路線の再編を進めるとともに、LRTを基軸とした「都心部まちづくりビジョン」を令和4年に策定したと報告がありました。



報告事例2 八戸市



報告事例3 宇都宮市



記念講演は、株式会社ジャパネットホールディングス取締役の岩下秀樹氏による「民間主導のスポーツ・地域創生へのチャレンジ」に関して講演がありました。

講演では、長崎スタジアムシティプロジェクトにおける「面で考える行政ではなく、点で考える民間企業だからできる幸福の最大化を目標に、スポーツを通して地域創生を行っていききたい。スポーツの弱点である試合がない時の普段使いで施設をどう活用していくかが事業会社としての投資回収に必要な。生活の一部となるように、長崎のみんなと2024年8、9月の竣工に向け作り上げていく」との話がありました。



岩下英樹氏



スタジアムシティ 公式サイト



スタジアムの普段使い(構想)



スタジアム建設現場

■大会2日目

佐世保市及び大村市の都市計画事業などの現地研修に参加しました。

○西海国立公園 弓張岳展望台

西海国立公園にある弓張岳展望台からの眺望になり、佐世保市海上自衛隊や米海軍基地等の立地や、九十九島など佐世保ならではの景色が望めます。



弓張岳展望台より南側(佐世保市)



弓張岳展望台より西側(九十九島)

○佐世保駅周辺、佐世保市中央公園(再開発事業他)

佐世保市は、平成28年に日本遺産「鎮守府」に共同認定され、駅周辺の再開発事業(H2~16年度)や港周辺の地区計画による開発(H25年度完了)、佐世保中央公園のPark-PFIを活用した官民連携による再整備事業(R4年4月供用)を実施しています。



させぼ五番街(地区計画により高さを規制)



公園再整備 地域物産店



公園再整備 飲食店

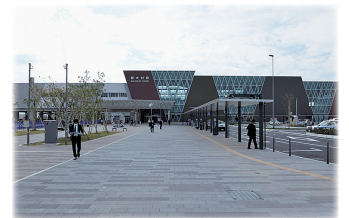
○新大村駅周辺土地区画整理事業、

車両基地駅整備事業など(大村市)

大村市は長崎県内で唯一人口が増加していることから、西九州新幹線の開業(R4.9)に併せ新大村駅及び車両基地駅が整備されました。また、新大村駅の東西約9.5haでは土地区画整理事業が実施されており、令和9年の完成を目標に整備が進められています。



駅周辺区画整理事業



新大村駅駅前広場



都市計画道路池田沖田線



車両基地と車両基地駅ホーム